

資料 39 村議會決議新聞記事・熊日 2025 年 12 月 13 日

記事①



記事②

(第3種郵便物認可)

球磨村長不信任

課題解決先送りに「NO」

議会判断 評価予断許さず

解説



不信任決議を受け、報道陣の質問に答える球磨村の
松谷浩一村長=12日、球磨村

熊本豪雨からの復興途上にある球磨村の松谷浩一村長に、反対派が多数を占める村議会が不信任を突きつけた。さまざまな村政課題が未解決のまま停滞しているのは、村長の「先送り」と「判断能力の欠如」に原因があるとして、村政からの退場を求めた形だ。【1面参照】

球磨村議会(定数10)には、村長派と呼べる議員が1、2人しかおらず、松谷氏は2020年の就任当初から議会との対立や衝突が恒常化していた。

村議会の主張によると、義務教育学校の設置場所を巡る判断が遅れたほか、温泉施設「かわせみ」の指定管理者から業者への未払い

がある問題や、契約を打ち切った一般社団法人の清算金を誰が支払つかなどの問題が先送りされている。

また、村職員をやゆしたと受け止められる発言で、松谷氏が報道陣を呼んで説明したケースもあった。こうした問題が積み重なって、村議会は6月、村長への辞職勧告決議を可決し、課題解決や政治姿勢に改善がなければ法的に強制力のある不信任案を提出する可能性も示唆していた。

今回、村議会が不信任案を出した背景には、もともと来年5月に任期満了を迎えるため、解散となつても選挙の日程が前倒しになるだけで大きなデメリットは発生しないという見通しあつたようだ。

ただ、松谷氏の行政運営に「一発退場」となるような決定的なミスや不祥事があったかどうかは見解の分かれることだ。不信任とされるところだ。不信任と「伝家の宝刀」を抜いだ村議会の判断を村民がどうなるかは分からぬかった。

球磨村は豪雨災害からの復興や人口減少への対応など課題が山積するだけに、傍聴した男性(78)は「村民不在の政争にも映る。今後どうなるかは分からぬかった」と切実に訴えた。

(金村貴太、東賣明)



松谷浩一村長に対する不信任決議案を可決した球磨村議会

球磨村の松谷浩一村長に対する不信任決議案が12日、村議会で可決された。本会議後の松谷村長の一問一答は次の通り。

「不信任決議への受け止めと今後の進退は、」

「真摯に受け止めている。進退は10日間のリミットの中で、議会の解散も含めて全ての選択肢の中で考える。」

「決議の中で、村議会から「自分が正しいと強引に物事を進めた」と指摘された。」

「感覚の差だと思う。私としては議会に受け止めている。進退は10日間のリミットの中で、議会の解散も含めて全ての選択肢の中で考える。」

「決議の中で、村議会から「自分が正しいと強引に物事を進めた」と指摘された。」

松谷村長一問一答

の質問に対してしっかりと答えてきたつもりだ。それがなかなか理解してもらえないかった。

「最近、幹部職員からリーダーシップを取つてほしいと改善を求める意見があつた。職員との信頼関係の構築に向けて、一步一歩前進していくかなければならない中で、うまくできなかつたことは反省している。」

「不信任決議は極めて重い。進退は何を基準に判断するのか。」

「これから村政において、村のためには何が一番良いのかを基準にしつかり考

今後の進退 全ての選択肢検討